

2025年2月28日

株主各位

## 第40期定時株主総会資料

電子提供措置事項のうち法令及び定款に基づく  
書面交付請求による交付書面に記載しない事項

連結株主資本等変動計算書  
連結注記表  
株主資本等変動計算書  
個別注記表

上記の事項につきましては、法令及び当社定款第19条の規定に基づき、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面には記載しておりません。

なお、本株主総会におきましては、書面交付請求の有無にかかわらず、株主の皆様へ電子提供措置事項から上記事項を除いたものを記載した書面を一律でお送りいたします。

## 連結株主資本等変動計算書

(2024年1月1日から2024年12月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
当 期 首 残 高	1,204,820	1,154,820	2,230,530	△0	4,590,172
当 期 変 動 額					
新 株 の 発 行 (新株予約権の行使)	1,056	1,056			2,112
剰 余 金 の 配 当			△170,453		△170,453
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益			362,559		362,559
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 当 期 変 動 額 (純額)					
当 期 変 動 額 合 計	1,056	1,056	192,105	-	194,217
当 期 末 残 高	1,205,876	1,155,876	2,422,635	△0	4,784,389

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	39,027	1,909	40,936	4,631,108
当期変動額				
新株の発行 (新株予約権の行使)				2,112
剰余金の配当				△170,453
親会社株主に帰属 する当期純利益				362,559
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	46,249	1,356	47,606	47,606
当期変動額合計	46,249	1,356	47,606	241,823
当期末残高	85,277	3,265	88,542	4,872,931

## 連結注記表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数

6社

連結子会社の名称

株式会社アイ・エス・ピー

株式会社アースプラン

株式会社沖縄設計センター

C.E.LAB INTERNATIONAL CO., LTD

株式会社アドバンスドナレッジ研究所

株式会社環境と開発

株式会社クリエイトについては、2024年7月1日付で株式会社アースプランと合併したため、連結の範囲から除いております。

### 2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

### 3. 会計方針に関する事項

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券の評価基準及び評価方法

##### a 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

##### b その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

- ② 棚卸資産の評価基準及び評価方法
  - a 仕掛品  
個別法による原価法
  - b 商品・貯蔵品  
先入先出法による原価法（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 有形固定資産（リース資産を除く）  
定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。
  - ② 無形固定資産（リース資産を除く）  
自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。
  - ③ リース資産
    - a 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。
    - b 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 貸倒引当金  
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
  - ② 賞与引当金  
一部の連結子会社については、従業員の賞与の支払いに充てるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。
  - ③ 工事損失引当金  
受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末において進行中の業務のうち、損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができるものについて、損失見込額を計上しております。

(4) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

(5) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

① 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、発生年度に全額を費用処理しております。

② 重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

a 試験総合サービス事業

土質・地質調査試験、非破壊調査試験、環境調査試験等を行っており、役務の提供又は調査・試験結果等の成果品を引渡す履行義務を負っております。

当該契約について、一定の期間にわたり履行義務が充足される場合は、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき一定の期間にわたり収益を認識しており、進捗度の見積りの方法は、見積総原価に対する実際原価の割合（インプット法）によっております。

ただし、少額もしくはごく短期の調査等については、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

また、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生した費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準により収益を認識しております。

b 地盤補強サービス事業

顧客との工事請負契約等に基づく地盤改良等の工事を施工する履行義務を負っております。

当該契約について、一定の期間にわたり履行義務が充足される場合は、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき一定の期間にわたり収益を認識しており、進捗度の見積りの方法は、見積総原価に対する実際原価の割合（インプット法）によっております。

ただし、少額もしくはごく短期の工事については、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

また、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生した費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準により収益を認識しております。

c ソフトウェア開発販売事業

土木測量設計ソフトウェア及び熱流体解析ソフトウェアの販売を行っており、顧客との契約に基づき、製品を引渡す履行義務を負っております。

ソフトウェアの販売については、製品を引渡す一時点において、顧客が当該製品に対する支配を獲得し充足されると判断し、収益を認識しております。

(会計上の見積りに関する注記)

1. 一定の期間にわたり充足される履行義務による収益

(1) 連結計算書類に計上した金額

一定の期間にわたり充足される履行義務による売上高 110,806千円

(完成済みの調査等及び原価回収基準により認識した売上高を除く)

(2) 識別した項目に係る会計上の見積りの内容に関する情報

一定の期間にわたり充足される履行義務については、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき一定の期間にわたり収益を認識しており、進捗度の見積りは、見積総原価に対する実際原価の割合（インプット法）に基づいて算定しております。

見積総原価については、受注段階において実行予算を編成し、着手後の各月において調査・試験・工事等の現況を踏まえて見直しを実施しており、当該時点で入手可能な情報に基づき見積りを行っております。

当該見積りは、資材や外注費等の市況変動、天災等の不確実要因により影響を受ける可能性があり、翌連結会計年度の連結計算書類において認識する収益に重要な影響を及ぼす可能性があります。

## 2. のれんの評価

### (1) 連結計算書類に計上した金額

のれん 77,329千円

### (2) 見積り内容について連結計算書類利用者の理解に資するその他の情報

のれんの減損の可能性について

当社のこれまでの企業結合の結果、2024年12月31日現在の連結貸借対照表にのれんが77,329千円計上されております。

のれんの内訳は以下のとおりであります。

のれんの発生要因	のれんが帰属する事業・サービス	企業結合年月	のれんの残高
株式会社沖縄設計センターの子会社化	試験総合サービス事業	2020年9月	17,034千円
株式会社アドバンスドナレッジ研究所の子会社化	ソフトウェア開発販売事業	2021年3月	60,294千円
合計			77,329千円

のれんについて、5年間の定額法により償却を行っております。また、その資産性について子会社の業績や事業計画等を基に検討しており、将来において当初想定した収益が見込めなくなり、減損の必要性を認識した場合には、当該連結会計年度においてのれんの減損処理を行う可能性があります。

(連結貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額 2,130,389千円

## 2. 偶発債務

当社が実施した工事に関連して、2012年8月に60,339千円の損害賠償請求の提起を受け、現在係争中であります。

また、連結子会社である株式会社環境と開発が実施したコンサルティング業務に関連して、2024年8月に100,000千円の損害賠償請求の提起を受け、現在係争中であります。

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数
- |      |             |
|------|-------------|
| 普通株式 | 14,237,995株 |
|------|-------------|
- (変動事由の概要)
- 増加数の内訳は、以下によるものであります。
- |                      |         |
|----------------------|---------|
| ストック・オプションの権利行使による増加 | 16,000株 |
|----------------------|---------|

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年3月22日 定時株主総会	普通株式	85,226	6.00	2023年12月31日	2024年3月25日
2024年7月12日 取締役会	普通株式	85,226	6.00	2024年6月30日	2024年9月3日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年3月21日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	85,322	6.00	2024年12月31日	2025年3月24日

(注) 2025年3月21日開催の第40期定時株主総会において付議いたします。

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金の一部を借入金及びリース債務により調達しております。資金運用については安全性の高い預金等を中心とし、一部を株式及び債券に投資しております。

営業債権である受取手形及び売掛金は、販売管理規程等に従い債権管理を行っており、必要に応じて信用調査を行う等、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、投資有価証券は株式及び債券であり、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2024年12月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
(1) 投資有価証券 (※ 2)	353,829	352,559	△1,269
資 産 計	353,829	352,559	△1,269
(1) 長期借入金 (※ 3)	494,749	490,450	△4,298
(2) リース債務 (※ 4)	176,598	171,666	△4,931
負 債 計	671,347	662,116	△9,230

(※ 1) 「現金及び預金」、「受取手形」、「売掛金」、「契約資産」、「買掛金」、「未払金」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(※ 2) 市場価格のない株式等は「投資有価証券」に含めておりません。  
当該金融商品の連結貸借対照表計上額は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	当連結会計年度 (2024年12月31日)
非上場株式	0

(※3) 1年以内に返済予定の長期借入金が含まれております。

(※4) 1年以内に返済予定のリース債務が含まれております。

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

#### (1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

当連結会計年度（2024年12月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	323,829	－	－	323,829
資    産    計	323,829	－	－	323,829

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品  
当連結会計年度（2024年12月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
満期保有目的の債券				
地方債	－	28,730	－	28,730
資産計	－	28,730	－	28,730
長期借入金	－	490,450	－	490,450
リース債務	－	171,666	－	171,666
負債計	－	662,116	－	662,116

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

#### 投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、レベル1の時価に分類しております。一方で、当社が保有している地方債は市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格とは認められないため、レベル2の時価に分類しております。

#### 長期借入金及びリース債務

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(収益認識に関する注記)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	試験総合 サービス 事業	地盤補強 サービス 事業	ソフトウェ ア開発販売 事業	計		
売上高						
一時点で移転される財	5,078,745	471,168	638,697	6,188,611	51,440	6,240,052
一定の期間にわたり 移転される財	988,071	62,771	－	1,050,843	－	1,050,843
顧客との契約から 生じる収益	6,066,817	533,940	638,697	7,239,455	51,440	7,290,896
その他の収益	55,153	－	－	55,153	－	55,153
外部顧客への売上高	6,121,970	533,940	638,697	7,294,609	51,440	7,346,050

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、試験機器販売事業を含んでおります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等) 3. 会計方針に関する事項 (5) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項 ② 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

なお、取引の対価は、履行義務の充足後概ね2ヶ月以内に受領しており、金額に重要な金融要素は含まれておりません。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

	当連結会計年度 (2024年12月31日)
顧客との契約から生じた債権 (期首残高)	1,059,226
顧客との契約から生じた債権 (期末残高)	1,089,857
契約資産 (期首残高)	258,609
契約資産 (期末残高)	305,664
契約負債 (期首残高)	64,096
契約負債 (期末残高)	67,410

契約資産は、主に一定の期間にわたり充足される履行義務について、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき一定の期間にわたり収益を認識することにより計上した対価に対する権利に関するものであり、当該権利が無条件になった時点で顧客との契約から生じた債権に振り替えられます。

契約負債は、支払条件に基づき顧客から受け取った対価に関するものであり、収益の認識に従い取り崩されます。

当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、53,554千円です。

なお、過去の期間に充足(又は部分的に充足)した履行義務から、当連結会計年度に認識した収益の額は52,436千円です。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当連結会計年度末において、残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	当連結会計年度 (2024年12月31日)
1年以内	1,762,209
1年超2年以内	48,180
2年超3年以内	1,965
3年超	1,050
合計	1,813,404

(1 株当たり情報に関する注記)

1株当たり純資産額	342.67円
1株当たり当期純利益	25.51円

(企業結合等に関する注記)

(共通支配下の取引等)

連結子会社間の吸収合併

当社の連結子会社である株式会社アースプランは、当社の連結子会社である株式会社クリエイトを2024年7月1日付で吸収合併いたしました。

## 1. 取引の概要

### (1) 結合当事企業及びその事業の内容

① 結合企業の名称 株式会社アースプラン  
事業の内容 磁気探査、測量設計業務

② 被結合企業の名称 株式会社クリエイト  
事業の内容 磁気探査、測量設計業務

### (2) 企業結合日

2024年7月1日

### (3) 企業結合の法的形式

株式会社アースプランを吸収合併存続会社とし、株式会社クリエイトを吸収合併消滅会社とする吸収合併

### (4) 結合後企業の名称

株式会社アースプラン

### (5) その他取引の概要に関する事項

当該取引は、完全子会社間の合併であるため、当合併に係る新株式の交付及び金銭その他の財産の交付はありません。

本合併は、重複業務の削減、電磁波探査技術を融合し、機動的サービスの拡充を目的とするものであります。

## 2. 会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

## 株主資本等変動計算書

(2024年1月1日から2024年12月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本					
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金		
		資 本 準 備 金	資 本 剰 余 金 計 合	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金	
				固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	別 途 積 立 金	
当 期 首 残 高	1,204,820	1,154,820	1,154,820	12,500	23,818	165,000
当 期 変 動 額						
新 株 の 発 行 (新株予約権の行使)	1,056	1,056	1,056			
剰 余 金 の 配 当						
当 期 純 利 益						
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						
当 期 変 動 額 合 計	1,056	1,056	1,056	-	-	-
当 期 末 残 高	1,205,876	1,155,876	1,155,876	12,500	23,818	165,000

	株 主 資 本				評 価 ・ 換 算 差 額 等		純 資 産 合 計
	利 益 剰 余 金		自 己 株 式	株 主 資 本 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
	そ の 他 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金 計					
繰 越 利 益 剰 余 金							
当 期 首 残 高	2,404,262	2,605,581	△0	4,965,222	38,302	38,302	5,003,525
当 期 変 動 額							
新 株 の 発 行 (新株予約権の行使)				2,112			2,112
剰 余 金 の 配 当	△170,453	△170,453		△170,453			△170,453
当 期 純 利 益	356,021	356,021		356,021			356,021
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 当 期 変 動 額 (純 額)					46,051	46,051	46,051
当 期 変 動 額 合 計	185,567	185,567	-	187,679	46,051	46,051	233,730
当 期 末 残 高	2,589,829	2,791,148	△0	5,152,901	84,353	84,353	5,237,255

## 個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的の債券  
償却原価法（定額法）
- ② 子会社株式及び関連会社株式  
移動平均法による原価法
- ③ その他有価証券
  - a 市場価格のない株式等以外のもの  
時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）
  - b 市場価格のない株式等  
移動平均法による原価法

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- ① 仕掛品  
個別法による原価法
- ② 商品・貯蔵品  
先入先出法による原価法（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

### (3) リース資産

- ① 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。
- ② 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

## 3. 引当金の計上基準

### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

### (2) 工事損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末において進行中の業務のうち、損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができるものについて、損失見込額を計上しております。

### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、発生年度に全額を費用処理しております。

## 4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

### (1) 試験総合サービス事業

土質・地質調査試験、非破壊調査試験、環境調査試験等を行っており、役務の提供又は調査・試験結果等の成果品を引渡す履行義務を負っております。

当該契約について、一定の期間にわたり履行義務が充足される場合は、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき一定の期間にわたり収益を認識しており、進捗度の見積りの方法は、見積総原価に対する実際原価の割合（インプット法）によっております。

ただし、少額もしくはごく短期の調査等については、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

また、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生した費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準により収益を認識しております。

(2) 地盤補強サービス事業

顧客との工事請負契約等に基づく地盤改良等の工事を施工する履行義務を負っております。

当該契約について、一定の期間にわたり履行義務が充足される場合は、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき一定の期間にわたり収益を認識しており、進捗度の見積りの方法は、見積総原価に対する実際原価の割合（インプット法）によっております。

ただし、少額もしくはごく短期の工事については、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

また、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生した費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準により収益を認識しております。

(会計上の見積りに関する注記)

1. 一定の期間にわたり充足される履行義務による収益

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

一定の期間にわたり充足される履行義務による売上高	110,806千円
(完成済みの調査等及び原価回収基準により認識した売上高を除く)	

(2) 識別した項目に係る会計上の見積りの内容に関する情報

一定の期間にわたり充足される履行義務については、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき一定の期間にわたり収益を認識しており、進捗度の見積りは、見積総原価に対する実際原価の割合（インプット法）に基づいて算定しております。

見積総原価については、受注段階において実行予算を編成し、着手後の各月において調査・試験・工事等の現況を踏まえて見直しを実施しており、当該時点で入手可能な情報に基づき見積りを行っております。

当該見積りは、資材や外注費等の市況変動、天災等の不確定要因により影響を受ける可能性があり、翌事業年度の計算書類において認識する収益に重要な影響を及ぼす可能性があります。

## 2. 関係会社株式の評価

### (1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

	当事業年度
関係会社株式	1,321,532千円
関係会社株式評価損	76,978千円

### (2) 識別した項目に係る会計上の見積りの内容に関する情報

関係会社株式のうち、市場価格のない子会社株式については、実質価額が貸借対照表価額と比較して著しく低下している場合、回復可能性の判定を行った上で減損要否の判定を行っております。なお、超過収益力等を加味して取得した子会社株式については、実質価額の算定に当たって超過収益力を含めております。

このように、超過収益力を含む実質価額の評価や回復可能性の判定には経営者の判断が含まれることから、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があります。

### (貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額 1,975,738千円
2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（区分表示したものを除く）

短期金銭債権	12,232千円
短期金銭債務	6,169千円
長期金銭債務	1,500千円

### 3. 偶発債務

当社が実施した工事に関連して、2012年8月に60,339千円の損害賠償請求の提起を受け、現在係争中であります。

### (損益計算書に関する注記)

#### 関係会社との取引高

##### 営業取引による取引高

完成業務収入	18,530千円
完成業務原価	39,028千円
商品売上原価	892千円
地代家賃	133千円
営業取引以外の取引による取引高	167,044千円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

普通株式

17,501株

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産の発生の主な原因は、退職給付引当金、子会社投資簿価修正、減価償却超過額、投資有価証券評価損等であり、繰延税金負債の発生の主な原因は固定資産圧縮積立金、その他有価証券評価差額金であります。

(関連当事者との取引に関する注記)

(単位：千円)

種類	会社等の名称	議決権の所有 (非所有)の 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引 金額	科目	期末 残高
子会社	(株)アドバンスド ナレッジ研究所	(所有) 直接100	役員の兼任	剰余金の配当 (注)	100,020	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 子会社の財政状態等を勘案し、株主総会において決定しております。

(収益認識に関する注記)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結計算書類「連結注記表（収益認識に関する注記）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(1株当たり情報に関する注記)

1株当たり純資産額

368.29円

1株当たり当期純利益

25.05円